



国際会長 シナヴァスカーン (インド)
 アジア太平洋地域会長 ジョウン・ウオン (香港)
 東日本区理事 山田公平 (宇都宮C)
 湘南・沖縄部長 久保勝昭 (横浜つるみC)
 クラブ会長 鈴木 茂

～2024-25年度主題～

“Together for better world”
 “Make a Great Impact”
 “Our Future Direction”
 “共に出会い、共に喜びを！”
 “受けるよりも、与えるは幸いなり”

～今年度クラブ役員～

会長 鈴木 茂
 副会長 坂口 直樹
 書記 大野 君枝
 会計 鈴木 恭子
 直前会長 今城 高之
 監事 辻 剛

今月の聖句

わたしがあなたがたを愛したように、
 あなたがたも互いに愛し合いなさい。
 ヨハネによる福音書 13章34節

9月のプログラム

9月は、28日（土）に You & I コンサートが開催されるため、27日の本例会は休会と致します。
 なお、10月は通常通り、第2火曜日（8日）に事務例会、第4金曜日（25日）に本例会が開催されます。10月本例会では、身近ではあるがあまり知らない「鉄」についての卓話が予定されています。

《巻頭メッセージ》

AI（人工知能）と人間の共存について

坂口 直樹

昨年来ChatGPTなる生成AIが世の中に紹介され大企業を中心に導入が盛んになっています。生成AIは過去の膨大な情報（ビッグデータ）を基に、人の要求に応じて、新しいモノ（文章、画像、音声、音楽、動画など）を生成するシステムです。AIが人間の脳と同程度になるのが2045年と予想されていますが、そのころには情報記憶と論理思考ではAIを頼る時代となり、人は人間しかできない能力を発揮する時代になっていると予想されます。



一方、AIは現代の戦略核兵器のように他国を攻撃する道具になる可能性や、富裕層だけがAIを活用することで格差社会が進む懸念もあり国際的なルール作りと人材育成が望まれています。例えばChatGPTをちょっと試してAIを感じてみました。

【ChatGPTへの質問：ワイズメンズクラブの課題と解決策を教えてください】

『ワイズメンズクラブが直面する課題解決策について、以下にまとめます。』

課題

1. 会員の高齢化と新規会員の不足
2. 活動の多様化と関心の維持
3. 資金調達の困難さ

グローバルとローカルの活動バランス

解決策

若年層の勧誘と教育

若い世代に向けたプログラムを展開し、彼らが参加しやすい環境を整えることが重要です。SNSやデジタルメディアを活用した情報発信や、学校や大学と

の連携を強化し、ワイズメンズクラブの理念や活動に共感を持つ新しいメンバーを募集することが効果的です。

活動の革新と多様化

社会の変化に対応した新しい活動を取り入れることで、会員の興味を引き続き引きつけることができます。環境保護やデジタル技術を活用した地域支援など、現代的なテーマに焦点を当てることで、より多くの人々に共感を得ることができるでしょう。

新しい資金調達手法の導入

クラウドファンディング、企業とのパートナーシップ、イベントによる収益など、従来の寄付に頼るだけでなく、新しい資金調達方法を模索することが必要です。透明性の高い財務管理も、寄付者の信頼を得るために重要です。

国際的・地域的活動の連携

国際的なプロジェクトと地域活動が相互に支え合う形を目指し、両者のバランスを取ることが重要です。例えば、国際的な奉仕活動の経験を地域の教育プログラムに取り入れたり、地域での成功事例を国際的に共有するなど、両方の活動が補完し合う形を作ることが効果的です。

これらの解決策を通じて、ワイズメンズクラブは今後も持続的な成長と社会貢献を続けることができるでしょう。』

多摩大学名誉教授の田坂広志氏は著書の中で、AI時代に知能（答えのある問いの解決）はAIに勝てないが、人間は知性や知恵（答えのない問いに対する解決方法）を身に着ける必要があると語っています。よりよい社会に向けて私たちもAIと共存する知恵を少し学ぶ必要がありますね。

“To acknowledge the duty that accompanies every right”

《クラブ例会報告》

8月本例会・納涼会報告

今城 宏子

日時：2024年8月23日（金）17:00~20:00

場所：夢Café

出席：今城T・H、エスキルドセン、岡田、鈴木S、

辻Ta・Ts、三木、水谷、森山

ゲスト：遠藤真理さん

司会：今城T 受付・記録：今城H

《開会》

- 鈴木会長による開会点鐘に続きワイズソング・ワイズの信条を唱和。
- 森田担当主事による今月の聖句および祈禱を頂いた。その中で8/7~8/19に行われたパヤオセンターでのプログラム（人身売買から身を守る研修）について言及された。
- ゲストの紹介では、横浜YMCA常議員・横浜YWCAの遠藤真理さんが紹介された。
- 会長挨拶では、8月は平和を考える月。ワイズは世界の平和を目指す団体であり、心して歩むことが大切と話された。

《協議・検討事項》

① YOU & Iコンサートの準備について

其々がチラシ配布、知人への呼びかけを行っている。

「ひろたりあん」に8月下旬のポスティングを依頼した。

8/28に公会堂との打ち合わせを行う。（鈴木会長・今城T出席）

当日はYMCAから18名の職員がボランティアとして参加下さる。感謝！

② ミャンマー市民支援チャリティーコンサートについて遠藤さんから説明を受け、クラブへの具体的な協力要請がされた。チケット販売については、とりあえず各自5枚のチケットを預かり販売に努める。

＜今後の行事予定＞

* 9/3（火）19:00 第103回Y-Y's協議会@中央

YMCA はつづきクラブが司会担当：報告：鈴木S

* 9/10（火）17:00 9月事務例会@夢カフェ（コンサート打合わせを中心に）

* 9/14（土）18:00（仮）Yサービス大和クリエイティブクラブ設立総会 @大和商工会議所

* 9/23（月・祝）10:00 横浜YMCAフェスタ@湘南とつかYMCA（報告：今城H）

* 9/28（土）14:00 YOU & Iコンサート@都筑公会堂（報告：大野）

* 10/19（土）10:00 横浜YMCAチャリティーラン@臨港パーク（報告：坂口）

* 10/26（土）14:00 湘南・沖縄部大会@湘南とつかYMCA（報告：今城T）

＜活動報告＞

* 東日本区：理事方針について会長より説明。

* 湘南・沖縄部：部評議会について8月プリテンに会長から報告。

* つづきクラブ：区費等の支払いを終了。

* YMCA：フェスタのチラシ配布。

＜HAPPY BIRTHDAY＞

辻 剛さん、および7月の誕生者にプレゼントが渡された。

＜スマイル・アピール＞

TKBカード作り：9月18日（水）13:30 @夢カフェ

納涼懇親会（会費：1500円）

ゲストの遠藤さんにも参加頂き、久々の会食の時を持った。残念ながら術後の大野さん、入院中の鈴木恭子さん、所要のため坂口さんが欠席であったが、2年ぶりに三木さんが復帰していただき、旧交を温めることが出来、本当に感謝であった。

会長による閉会点鐘をもって閉会。

以上

今月のTKB

暦の上ではすでに秋ですが、実際の天候は一向に秋めいてきません。とはいえ、山元町の高齢者施設と保育所にお送りする9月のバースデーカードの絵柄は、お月様とウサギにしました。絵柄から季節を感じて頂ければとの思いからです。被災地の復興状況が気になります。外面的な復興は進んではいるものの、未だ、ご苦労をされている方々も多いと聞きます。原発の廃炉化もほとんど進んでいません。燃料デブリの取り出し試験再開と伝えられていますが、本格的な作業の目途がついているとは思えません。



“To acknowledge the duty that accompanies every right”

第103回 Y-Y's協議会報告

鈴木 茂

2024年9月3日（火）19:00-20:30に、横浜中央YMCA 608室及びZoomにて、Y-Y's協議会が開催された。出席者は20名で、横浜つづきクラブからは今城T、坂口、森山担当主事、鈴木Sが参加し、辻TsuがZoomで出席した。

開会礼拝は、森山真治担当主事による聖書朗読と祈祷で始められた。佐竹博・横浜YMCA総主事が挨拶し、YMCAとワイズの協力・連携が重要であると述べ、Y-Y's協議会の意義を強調した。また、久保・湘南沖縄部長は、挨拶で協議会の重要性を再確認する意向を示した。協議内容は以下の通り。

1. ユースボランティア・リーダーズフォーラム：

阿部正伴担当主事から、9月6日（金）～8日（日）に東京YMCA山中湖センターで開催されるフォーラムについて、横浜YMCAから6名のリーダーが参加するとの報告があり、参加リーダーをクラブ例会の卓話者として招待したいとの希望が出された。

2. 第27回横浜YMCA国際チャリティーラン

関口務担当主事より、10月19日（土）に臨港パークで開催されるチャリティーランの概要と、ワイズへのスポンサー協力の依頼がありました。オンラインアプリ「Reno Body」は10月2日から16日まで使用可能。

3. 横浜YMCAフェスタ

鈴木茂会員事業委員が、9月23日（月・休）に湘南とつかYMCAで開催されるフェスタの概要を説明し、久保勝昭部長の「うたごえ広場」や「絵本の読みかきせ」、「ワイズコーナー」などの紹介を行った。

4. 横浜YMCA140周年記念行事

佐竹博総主事から、10月5日（土）に横浜海岸教会で記念礼拝を行い、その後上海YMCAとのパートナーシップ協定締結式を実施、同日15:30より英一番館で記念感謝会を開催する旨が説明された。

6. 新クラブ設立

久保勝昭部長から、湘南・沖縄部に新たに大和クリエイティブサービスクラブが設立されること、設立総会が9月14日（土）18:00に大和商工会議所で開催される旨が報告され、祝福の意が示された。

7. 横浜とつかクラブの解散

横浜とつかクラブが6月30日付で解散し、6月22日に湘南・沖縄部評議会です承されたことが説明された。

8. 湘南・沖縄部の部名変更

沖縄におけるクラブが消滅したため、部名変更が必要であり、部名変更検討委員会を9月30日（月）と10月30日（水）に開催し、部名を公募することが提案された。

9. その他報告

第31回AIDS文化フォーラム（8/2- 4）、専門学校日本語スピーチコンテスト（8/30）、YWCA・YMCA共同主催のミャンマー市民のためのチャリティーコンサート（11/16）の報告があり、各クラブから最近のトピックスが報告された。

次回の104回協議会は2024年12月3日（火）に横浜つづみクラブ担当で開催予定。

《投稿コーナー》 夫婦別姓問題 T.I.

いま日本では、いわゆる「選択的夫婦別姓制度」についての論議が行われており、政治の世界では長年にわたる議論にも関わらず、特に保守政党内部では、未だ反対する声が喧しいようです。そんな議論を見聞きしながら、ふと以前、アイスランドの友人から聞いた同国の家族の「姓」についての興味ある話を思い出した。

アイスランドでは、生まれた子が男子であれば、父母何れかの名に、息子という意味の「ソン」をつけるので、彼の姓は「高之ソン」あるいは「宏子ソン」となり。女子であれば両親何

れかの名前に、娘という意味の「トッター」をつけるので、彼女の姓は「高之トッター」あるいは「宏子トッター」となる。男子の場合、父親の名前を使うことが多いことから、いきおい、「x x ソン」という姓が多いことになる。両親の姓は既に違うため、両親と男女の子どもの家庭では4つの姓、家族全員が異なる姓を持つことになる。勿論、慣れということもあるが、アイスランドでは家族の姓が異なっても何ら不具合はなく、姓が異なることで家族の繋がりが希薄だといったことはないようだ。日本では、特に若い世代では、夫婦別姓を希望する人が多いと聞く。早く、好きな姓を選択できるようにしては・・・。

北YMCA 便り

横浜北YMCA 健康教育部 館長 森山真治

今夏、横浜市中区で記録した猛暑日（最高気温35度以上）は、8月末までで10日に達し、1896年以降、観測史上最多記録を更新したようです。

横浜北YMCAでは、8月25日（日）に、子どもたちの自然体験と豊かな交流を目的に、小学生から中学生の子ども達を対象に、横浜市三ツ沢公園青少年野外活動センターで「流しそうめん体験」を実施しました。横浜北YMCAの子ども達を対象にした野外活動は、コロナ前から久しぶりの実施で、当日は20名を超える子ども達が集まりました。

当日は、天候も良く、野外炊事場でそうめんと白玉フルーツポンチをつくりました。薪割りやマッチを使っての着火など、初めて体験する子ども達には、リーダーと一緒に付き添い、器具の使い方や注意点などを伝えながら、安全に行いました。皆で作ったそうめん、白玉フルーツポンチをお友達と一緒に味わい、お腹いっぱいになりました。

流しそうめんは、とても好評で、子ども達だけでなく、申込時には、家族での参加を希望するなど、保護者の方も体験したいプログラムでした。企画をした、スタッフやユースリーダーの皆さんの感性がとても豊かであったと感じています。

現在、子どもたちを対象にしたYMCAの野外活動は、シーズンキャンプを中心に、神奈川県下の全ての子ども達を対象に実施していますが、横浜北YMCAのプログラムに参加する港北区、鶴見区、神奈川区の子ども達が野外活動を通して、豊かな交流が広がるよう、今後もこの活動を継続していきたいと思ひます。



夏休み最後のイベント、楽しかった「流しそうめん体験」



ご案内 ミャンマー支援チャリティーコンサート

ロシアのウクライナ侵攻やパレスチナ紛争の影に隠れがちなミャンマーでは、いまだに多くの国民が軍事政権下で脅威にさらされています。しかし、そんな中でも暴力に頼らず、持続可能な農業、民主的な教育、近代的な医療を実践し、明日のミャンマーを目指して活動する市民グループが存在しています。

これらのグループを支援するため、韓国、台湾、アメリカ、日本の19団体が加盟する「ビルマプラットフォーム（BPF）」が結成されました。この度、BPF加盟団体である日本のYMCAおよびYWCAが協力し、国際的に活躍するピアニスト、ディエゴ・カエターノ氏とメゾソプラノ歌手、田辺いづみ氏によるチャリティーコンサートを開催いたします。コンサートの収益金は、ミャンマーの市民グループへ寄付される予定です。

当クラブもこの趣旨に賛同し、側面的な支援を行っております。皆様におかれましても、ぜひコンサートに足をお運びいただき、支援の輪を広げていただけますと幸いです。チケットのお申し込みは、当クラブ会長の鈴木茂までご連絡ください。

連絡先：090-4842-9363

Program

ビゼー：ハバネラ
 シューベルト：魔王
 アメイジング・グレイス
 カッチーニのアヴェ・マリア
 中山晋平：ゴンドラの唄
 ショパン：英雄ポロネーズ
 ショパン：夜想曲第8番
 ベートーヴェン：悲愴ソナタ 他

2024. **11.16** 土

開演 14:00(開場 13:30)
 慶應義塾大学日吉キャンパス
 協生館 藤原洋記念ホール

全席自由 3,000円/小学生~高校生 1,000円
 サポーターズチケット
 【数限定の特別指定席】 5,000円

チケットお求め・お問い合わせ

オンラインチケット販売

Phone: 03-3292-6121 (平日 9:30~18:30)
 E-mail: office-japan@ywca.or.jp

公益財団法人日本YMCA
 担当：小笠原

主催「ミャンマーの市民と共に希望の光に向かって」コンサート実行委員会
 構成団体 (公財)日本YWCA / (公財)日本YMCA同盟 / (公財)横浜YWCA / (公財)横浜YMCA / サムレーン・アプア
 後援 (公財)東京二期会 / (一財)平塚YWCA / (一社)東京室内歌劇場 / 国際基督教大学同窓会

チャリティーコンサート

ミャンマーの市民と共に

希望の光に向かって

ディエゴ・カエターノ

メゾソプラノ 田辺いづみ

バダウの本
 バダウはミャンマーの人の
 愛されている花です

去る、9月6-8日に開催された第35回YVLFに、当クラブより鈴木会長と今城が、一部プログラムに参加したので、状況を報告します。

9月6日午前には都筑を発ち、一路、会場の東京YMCA山中湖センター（キャンプ場）に車を走らせました。途中、東名高速で中規模渋滞に遭遇しましたが、ほぼ予定通りに進み、忍野村での昼食の後、午後2時前に会場の山中湖センター着。一足先に着いていたイベント運営委員長、東京多摩スマイルクラブの城田ワイズ共々、バスで来る本隊の到着を待ちました。中央道の大渋滞に巻き込まれた本隊でしたが、予定の4時に丁度山中湖センター到着。

今回の参加者は、東日本区各地11拠点からのリーダーたち26名、主管の東京YMCAならびに横浜、茨城、栃木各YMCAのスタッフおよびワイズメンバー約30名の総勢60名弱のフォーラムとなりました。

14:30から始まった開会式の挨拶で、山田東日本区理事（宇都宮クラブ）は、YVLFのテーマとして、ユースにチャンス与えるためのYouth Actionをより社会のテーマに沿ったものにする事と、YMCA、ワイズ、ユースがパートナーとしての関係を深めることだと提起されました。

開会式、オリエンテーションに引き続いてのアイスブレイクでは、初めて会う人が多いことから、互いに名前を覚えるためのゲームに、東京YMCAスタッフの巧みな誘導でひと汗かき、うちとけた雰囲気醸し出されました。

全員で夕食を取った後は、熊本YMCA伊藤眞太郎氏による基調講演で、子どもたちの居場所作りを進める熊本YMCAが行う、「不登校児童・生徒支援プログラム・ぷらっとほーむ」についての報告と質疑、討論が行われました。

就寝前のひと時、リーダー達、ワイズの面々それぞれ別個に語り合いの時を持ち、ワイズの20数名は、若干のアルコールも入りつつ、熱心に、それぞれの取り組みやユースとの関わりなどについて語り合うことができました。

翌朝は6時半起床、キャンプ場内の広場での朝の集いがあり、朝食後はグループタイム、引き続いて、山中湖センターの名物プログラム、「ビッグカヌー」乗船と続きました。リーダー達とワイズで構成する10名の漕ぎ手とスタッフ1名の計11名が乗船する大型カヌーで、富士山に向かって山中湖に漕ぎ出すプログラムです。事前に、基本動作をしっかり教わり、ライフジャケットを身に着け、掛け声に合わせて漕ぎだしますが、岸から見てみるとパドルはバラバラ、思うように進んではくれません。それでも10分もすると、スイスイと進むのはなかなかのものでした。

カヌー漕ぎを終え、全員が食堂で昼食をとっていた時のこ

と、唸るような声が聞こえ、振り向くと、運営委員長の城田ワイズが食卓に突っ伏しているのが見えました。すぐに周りの人たちが様子を聞いたりしていましたがとても辛そうで、遂に床に倒れこんでしまわれました。センターのスタッフが救急に連絡したのでしょうか、ご当人が声を振り絞って、救急隊員に電話で症状を説明しておられる声が聞こえました。皆が食堂を出て心配そうに遠巻きにして見ている中、救急車が到着し、暫く手当などした後、何人かが付き添って搬送されてゆかれました。次のプログラムが始まって暫くの後、付き添った方も戻られました。その方によると、最寄りの富士吉田市民病院まで搬送されたが、症状が思わしくなく、急遽、ドクターヘリで山梨大学病院に搬送されたとのことでした。残った私たちはがユース活動の強化についての話し合いを持ち始めて間もなく、病院から電話があり、城田さんが亡くなったとの報が伝えられました。会に参加していたワイズ全員が輪になり、手をつなぎ合って祈りの時を持ちました。ついさっきまで、笑顔でカヌーを漕いでいた城田さんが天に召されたなんて、誰にも信じ難いことでしたが、現実でした。死因は腹部大動脈解離とのことでした。51歳という若さで天に召されました。

鈴木会長と筆者は直後山中湖を離れ帰路につきました。

後日の報告によりますと、翌8日には西宮よりご親族が駆け付けてこられ、10日に甲府市内で、ご親族、YMCA、ワイズ関係者等が出席してお別れ会が行われ、その後ご遺体は荼毘に付されたということです。

城田さんの御霊が神様の御許で、安らかに憩っておられんことをお祈りいたします。



亡くなる僅か二時間前には城田さんもカヌー漕ぎを楽しんでおられました。

“To acknowledge the duty that accompanies every right”

